

【エクアドル内政・外交：2013年12月】

1. 内政

(1) ハラミージョ都市開発・住宅大臣の辞任

ア コレア大統領は、5日付大統領令第170号を以て、ハラミージョ都市開発・住宅大臣の辞任を認め、ディエゴ・アウレスティア駐ポルトガル・エクアドル大使を新大臣に任命した。

(2) 刑事・刑事訴訟法の国会可決

ア 17日、2011年11月に国会に提出され26ヶ月に亘り審議が行われていた刑事・刑事訴訟法が可決された。今後30日以内に大統領が拒否権を発動するかが決定される。また同法律は官報掲載後、180日後に施行される。

イ 同法案は、第1編「総則」第2編「罪」第3編「刑事訴訟」の730項目と第4編の「附則」からなり、与党国家同盟（AP）により、過去の刑事法・刑事訴訟法の300項の修辭上と中身の見直しが行われた。同法案の投票は4つに分けて実施され、101の賛成票、28の反対票、1の棄権票で刑事・刑事訴訟法が可決された（野党政党のPSC, MG, CREO, SP, SUMA, PKは反対票を投じた）。野党側は、修正された内容が野党側に時間的余裕をもって伝えられなかったことを含め、今回国会可決した刑事・刑事訴訟法案は審議過程に問題があったとして憲法違反を訴えた。

ウ 今般改正による主な変更点は、胎児の罪、環境・自然破壊の罪、交通規制に対する犯罪、過失傷害の罪、女性に対する罪、動物虐待の罪などであり、胎児の罪は、墮胎行為を罰することについて宗教の観点からも議論がなされ、また過失傷害の罪では、医師の不手際により患者が死亡した場合の適用などについて、関係団体と政府との間で話し合い等が実施されていた。

2. 外交

(1) FARCのDaniela Aladana グループ・リーダーのコロンビアへの送還

ア エクアドル内務省は、3日、エクアドルのサント・ドミンゴ・デ・タチラ県のユニオン・シビカ・ポプラー地区において身柄を拘束されたFARCのDaniela Aladana グループ・リーダーであるコロンビア人 Mario Manuel Cabezas Munos（通称 Mario Latas）をコロンビアに送還したことを明らかにした。

イ 同人はエクアドルに不法滞在しており、エクアドル国家警察は、同人の身柄

を拘束後、すぐにコロンビア国家警察に同情報を伝えた。コロンビアはエクアドルに対し同人の前歴に関する情報を共有していた。同人はコロンビア国内のいくつかの市の警察署を攻撃しており、テロ、殺人、謀反の罪に問われている。

(2) レニン・モレノ前副大統領の障害者国連事務総長特使への任命

ア 19日、潘基文国連事務総長は、レニン・モレノ前副大統領の障害者国連事務総長特使 (Special Envoy on Disability and Accessibility) への任命を発表した。任命文書には、「身体障害者の社会福祉の充実、非排他的社会の実現に向けてこれまで大きな改善があったが、未だ社会と障害者の間には大きなギャップがある」とし、モレノ前副大統領の今回の任命により、障害者の権利を促進し、特に障害者の社会へのアクセスを改善させることが期待されている。

イ モレノ前副大統領は、現在、OASの障害者に対するあらゆる差別を廃絶するための米州委員長を務めており、先般のノーベル平和賞の候補者にもなっていた。

ウ 20日、パティーニョ外相は、モレノ前副大統領の障害者国連事務総長特使への任命に関し、モレノ前副大統領がエクアドルを代表し、国際的に重要なポストに任命されたことは喜ばしいと述べた。

(3) エクアドル外交（新外務副大臣の任命）

ア 20日、パティーニョ外相は、OASのエクアドル常駐代表大使に任命されたアルブハ外務副大臣 (Viceministro de Relaciones Exteriores e Integracion Politica) の後任としてレオナルド・アリサガ (前駐ベネズエラ・エクアドル大使) の任命を正式発表した。

イ アリサガ新副大臣は、就任式の中で「職業外交官として副大臣の役職を務めることは大変栄誉なことである。エクアドル外交の目標達成のためパティーニョ外相を支え、またエクアドル外務省職員と共に、良い職場を作っていけるよう出来るだけの努力をする」と述べた。

ウ なお、レオナルド・アリサガ新外務副大臣は職業外交官であり、エクアドル外務省二国間関係部局次官、在オーストリア大使館勤務時代に国連工業開発機構 (UNIDO) エクアドル次席代表、国際原子力機関 (IAEA) エクアドル次席代表を務め、その後、駐中国エクアドル大使、駐ベネズエラ・エクアドル大使を務めた経験をもつ。